



1. 実施概要

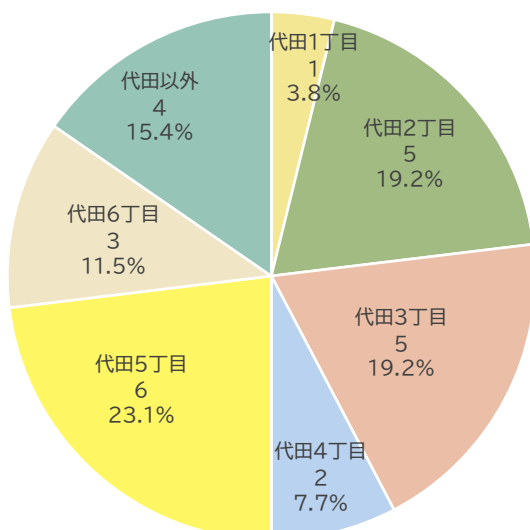
これまでに皆さまからいただいたご意見、アイデアをもとにまとめた「地区街づくり計画の方向性(たたき台)」について、第3回代田まちのみらい会議やパネル展、インターネットを通してアンケートを実施し、皆さまからご意見をいただきました。

実施概要は以下のとおりです。

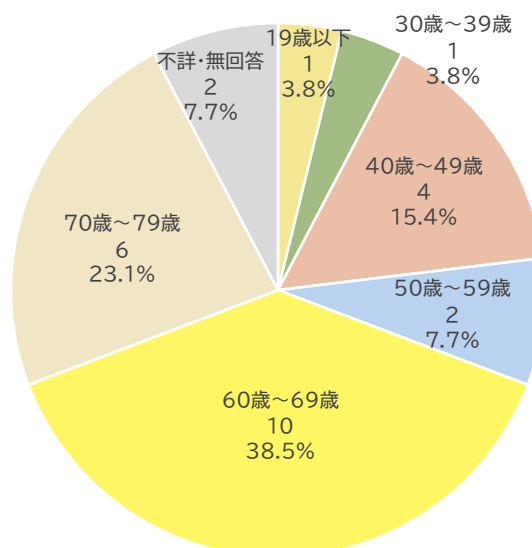
対象	誰でも
実施方法	アンケート用紙やアンケート用サイトで回答
実施期間	令和7年2月15日（土）～令和7年3月16日（日）
回答者数	26名

回答者の属性

● お住まい



● 年代

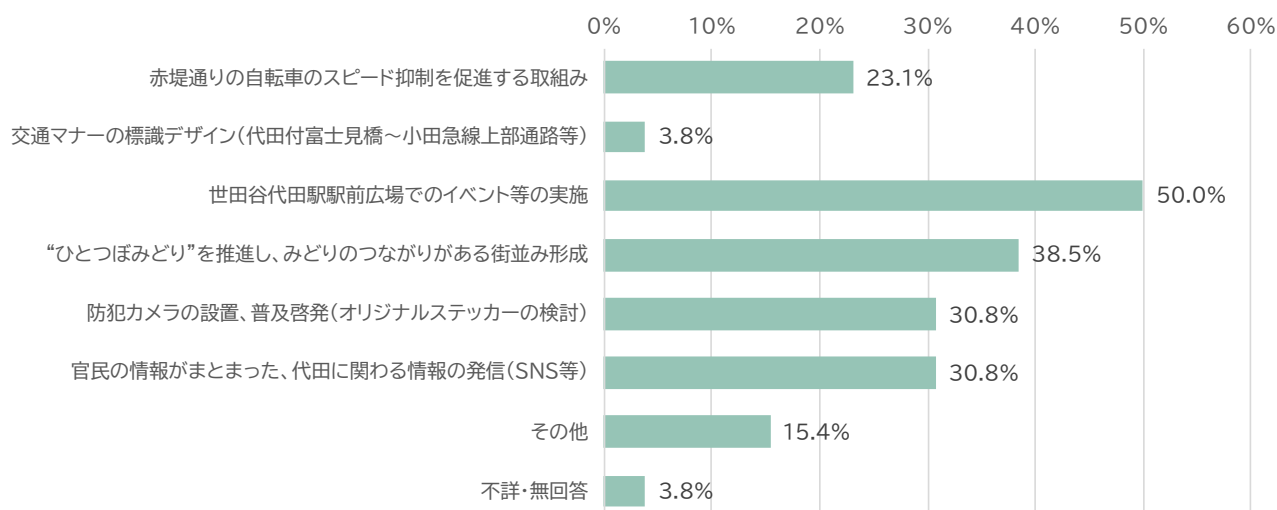


2. 回答結果

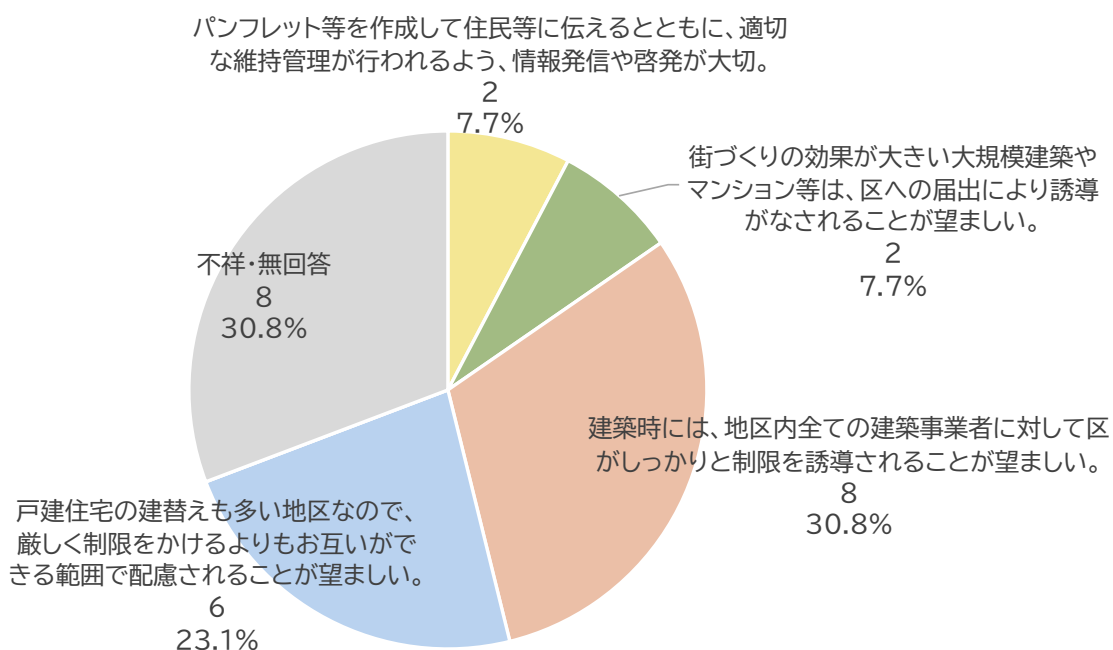
アンケートの回答結果については、以下のとおりとなっている。なお、集計結果については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

地区街づくり計画の方向性

① より良い街にするため、“代田地区でできるといいな”と思う取組みを選択してください。（複数選択可）



② 代田地区内の建築、維持管理の誘導を図るため、どのような運用が望ましいでしょうか。（1つ選択）





自由記述でいただいたご意見

※プライバシー保護のため、一部の記述を省略しています。

③ 「地区街づくり計画の方向性(たたき台)」について、ご意見、ご質問などをご記入ください。

- ☐ 住居表示の徹底。昔の関東大震災に表札があることにより苦勞された・水はけの悪い造成・毒を撒き散らす除草剤の禁止
- ☐ 文化伝統について代田八幡神社を中心に例大祭、お祭り等を配信してほしい
- ☐ 代田駅前広場のラベンダーが綺麗に咲いています。花つみイベントしたいです。
- ☐ グループ①でした。皆さん活発な意見が出てとても参考になりました。ありがとうございます
- ☐ 目標を現在の5つに1つ加えて、個別に具体的な項目を明記できるようにする。例えば羽根木公園、北沢緑道、環七など、5つの目標にそれ等をぶら下げるのではなく、目標の中の列記ができると目標管理が具体的になる
- ☐ 代田らしい個性のある方向性が出来ることを望んでいます
- ☐ 3グループのシートの内容のままです
- ☐ 前回の投票結果の第1位である「犯罪がない安心、安全なまち」「マナーを守って住みやすいまち」が代田の住民の声を反映した最優先テーマであるのに、それを重要視しないのはおかしいです。区の恣意的な誘導を感じます
- ☐ 「代田のまちの未来」の投票結果の子供の1位である、「犯罪がない安心、安全なまち」「マナーを守って住みやすいまち」を最優先の目標・方針にして下さい！（治安・防犯のため）・防犯カメラ設置以前に、代田までが商業地である下北沢と誤解している、マナーが悪くモラルが低いシモキタ界隈で騒ぐ人達を、住宅地に入れられない様にして閑静な住環境にして下さい！・集合住宅居住者に対して、不動産会社・管理会社を通して、「代田は閑静な住宅地」である事を周知して生活マナーを守らせて下さい！・まちの目標（方向性）から「代田らしいにぎわい」を削除して下さい（賑わいたい時は商業地に行くのが常識です）
- ☐ 「代田のまちの未来」の投票結果で、大人も子供も「犯罪がない安心、安全なまち」が第1位なので、これを踏まえて、これを最優先の目標・方針にして下さい！（区長と区職員は治安・防犯に無頓着です）・防犯カメラは全戸に設置されている訳ではありませんので、ステッカーをデザインするのではなく、そもそも外部の怪しい不審者の侵入を防いで下さい！・環七と赤堤通りの歩道を拡幅して下さい！（住民の力では出来ないの、行政の力でお願いします）・マナーや常識として、住宅前にベンチを置いて座らせないで下さい！（その代わり、小型シニアカーをベンチの代わりにする）・標識デザインなど日常注意して見ません、そもそも注意しなければならない様な外来者を住宅地である代田に入ってくる様にして下さい！（地元住民はマナー違反しません）・区営住宅の入居者向けに配布される生活ルールを伝える冊子があると思われるので、それを参考にして下さい
- ☐ 代田地域に住んでいる(多数の)人たちの理解が得られるかが、課題ではないかと考える
- ☐ 交通機能に関して、狭い道が多いので、一方通行の道路に効果的に変更して、車には少し遠回りになっても、車と歩行者が通行しやすくして欲しい。
- ☐ 世田谷代田駅付近のことばかりで新代田駅近辺への言及が少ない気がします。
- ☐ シモキタ園藝部の活動のように自然環境と都市の良い循環が生まれるような持続可能循環地区として先進的な街にしていきたい。市民や若者がまちづくりに関われる機会をより増やしてほしい。また若者が参加しやすい工夫(例えば若者が多く集まる場所である SHIMOKITA COLLEGE

での会議開催など)

- 他の地区で既に実践されている、街づくりの実例を多く示してほしい
- より良い街づくりのためのポイントがよくまとまっており、分かりやすかったです。ポスティングされていたお知らせは目を通していましたが、こうして徐々に形になっていくんだなあと感じました。
- 「今ここ」と記載があるのも良いですね！
- 世田谷代田駅前広場のお披露目イベントがコロナで自粛されてしまったので、ぜひ駅前でのイベントがあると良いです！
- 代田地域の団体で盛り上げていけたら良いですね！和太鼓演奏やブラスバンド、ダンス、ワークショップなど、子どもも活躍できる場など。
- 地域の繋がりが濃く、子供たちが伸び伸びと体験や経験、表現のできる環境があり、地域の方々が見守ることのできる街であることを願います。
- 代田に住むということがハードルが高くなる施策(前述の制限など)が増えると良いと思います。それが「らしさ」を生み、住んでいる人たちのシビックプライドを養っていくと思います。また対象として難しいのだと思いますが、賃貸居住者向け、20代30代向けとのコミュニケーションが必要だと思いました。
- 集合住宅など新たに住民となっていく人たちにも「代田らしさ」を解消して欲しい。まちの余白の中で、働き世代の関わりしろが増えると嬉しい。

④ その他、ご意見、ご質問などがございましたらご記入ください。

- 世田谷代田駅に富士山をPRしてほしい
- 公園は犬のトイレではないです。公園の作業をするとき臭くて困っています
- 代田は住宅地ですので、下北沢(シモキタ)と混合しないように区職員、鉄道会社、不動産関係会社(デベロッパー等)、マスコミにキチンと正しく認識して頂くようお願いいたします。代田に下北沢ではしゃぐのが好きなマナーの悪い人が流入してきて困っています
- ・代田は「住宅地」です。区はその基本を認識して、事業者(不動産・建設・鉄道・商業者等)に正しく伝えて下さい。また、この様な集客して利潤を追求する事業者の陳情・要望を聞くのではなく、地元住民の要望のみを聞いて、住民の安全・安心な生活を守って下さい！・そのために、商業地と住宅地を明確に区別して、の飲食店、ライブハウス、喫煙客で周辺に迷惑を掛けている施設は、商業地である下北沢に移動させて下さい。特に音楽好きが集まる店の来店客は落書きをしたり住宅地で話していて大変迷惑しています！
- 小田急線の東北沢駅～世田谷代田駅の間が地下化された後、地元住民の声を聞かずに造られてしまいましたが、この3駅を一括りにして、区長と職員がシモキタと呼んでいたため、世田谷代田まで下北沢(シモキタ)と混同されています。シモキタは下北沢駅及び下北沢商店街の略称・通称であり北沢二丁目のみが対象です。しかし、この区別が付いていない区長・区職員、デベロッパー、メディア等の事業者によって、代田2・5丁目まで「下北」「シモキタ」とされてしまいました。その結果、下北沢駅前ではしゃいでいるマナー・モラルの低い人達が、住宅地である代田に、観光地・商業地と誤解して侵入して来られて、地元住民として大変困っています。騒音、ゴミ放置、住宅の盗撮、大きなマンション建設計画など。これは全て、代田・代田地域にも下北沢と誤認される名称を勝手に命名されたのが一番の原因です。代田は「閑静な住宅街」です。その事が解っていない区長・区職員・事業者によって、観光地化されてしまいました。上部施設は世田谷区が買い取って公園・広場に「代田緑道広場」(仮称)とし、地元住民が健康的に使える散歩道・健康相談所・社会人向け学習施設(プログラミング、英語、その他)を作り、小規模な「うめとぴあ」の様になると、「地元住民」に大変喜ばれて、治安が良くなります。地

元住民の安心・安全のために、是非ともやり直して下さい。よろしくお願いします。

□各論賛成でも、どの位 皆さんが実際に取り組んでいただけるのか、が鍵ではないかと、思います。

□計画以前からの、代田地区で実践されてきた街づくりの取り組みや、街づくりにつながる「まちづくり」の取り組みを示してほしい

□素晴らしい世田谷代田駅前広場を活かしたイベントがもっとあると良いと思います。和太鼓やピアノ、ダンスなど地域で活動している団体が発表できる場があると素敵だと思います。

□前述の課題感に通じますが、参加者の偏りがあるのは現状よくとも未来を考えた際に持続可能性がなくなると思います。

□いつもありがとうございます！

代田地区は地域分断要素である環七を中心軸にし、地区が区切られており、都市計画上の外周道路である環七＝地域の外側を真ん中に据えた計画づくりが必要になる。言い換えればどのように環七を計画の中に盛り込むかが課題となる。

また両側の地区が繋がるのは信号交差点、小田急線の上空、新代田駅前の信号横断歩道、二本の歩道橋である。この地区の拠点は、地域の外側にある羽根木公園と下北沢界隈であり、交差点など両側の地区の繋ぎ目は拠点ではなく、両側の地区を行き来できるようにする結び目の役目しか持ち合わない。また鉄道駅は、人は集まるものの、それだけで地区の拠点と呼べるものではなく、むしろ外の世界に通じる交通の結節点であることに注意する必要がある。

また現在の骨格ではないが、歴史ある旧道鎌倉道はこの地で忘れてはなるまい。

以上から、本地区の基本骨格は次のようにあらわされよう。

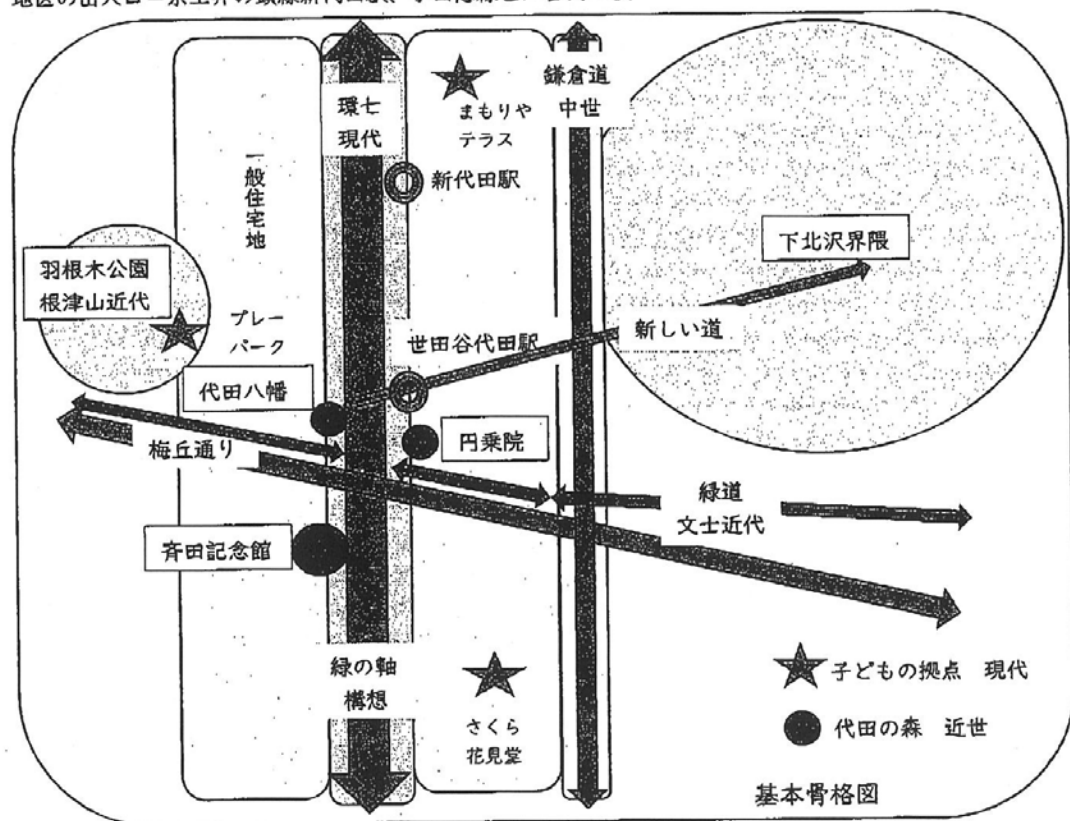
1. 街の基本骨格

骨格軸＝住宅地を南北に縦断する幹線道路＝環七→緑の軸へ

拠点＝羽根木公園、商業や文化の拠点である下北沢、地区の緑の塊としての代田の森

補助軸＝環七と交差する梅丘通り、並行する旧くからの鎌倉道、小田急線の新しい道、北沢川緑道

地区の出入口＝京王井の頭線新代田駅、小田急線世田谷代田駅



2. 街づくりの要素（街づくり通信1参考）

街づくりの要素として、①土地利用上の面、②地区の基本骨格である環七、③交通の結節点＝鉄道駅と交差点、歩道橋、バス停、④拠点＝広い目で見えた拠点、⑤生活道路＝補助軸、拠点に至る生活道路、緑道、古くから街道、⑥地区内の魅力あるポイント、人が集まる場所などを取り上げる。

① 土地利用上の面

土地利用上、地区は大きく、環七沿道と背後の住宅地に分かれる。環七に沿った沿道の20mの区域は、南部は準住居地域、小田急線と京王線の間は近隣商業地域と定められており、背後地域は第一種住居専用地域である。

沿道の区域は防火地域指定であり、環七と合わせて幅60m超の延焼遮断帯を形成する。

環七沿道では40年ほど前に高さ5m、遮音型の街並み、住宅の防音構造からなる沿道地区計画が定められている。なお沿道地区計画にあって、京王井の頭線北部及び小田急線南部の地区では、垣さくの制限が懸けられ、緑化推進区域となっており、八幡神社は保存すべき樹林地と指定されている。

ここで、京王線と小田急線の間の区間で、緑化保全区域の追加指定ができないかが、一つの課題となる。何故か。環七沿道は環境上劣悪であり、少しでも良くするには、壁面・垂直緑化、屋上緑化でもよいが、緑の保全・増強しか手はないと思うからである。

環七沿道の背後地は一般住宅地であり、緑を保全し、良好な住宅地の環境を維持する。

② 代田地区の基本骨格である環七

沿道地区計画において、沿道の土地利用で緑化保全計画が全区間で計画され、現在、環七外側の代田4丁目区間のように無電柱化と併せて植樹帯整備がなされれば、緑の軸構想が可能となる。その時に、地区の外周道路であった存在が、地区の骨格としての存在に生まれ変わる。

都内でも有数の交通量が集中する主要幹線道路である環七は、沿道に対する環境対策を第一義として区間を4車線にし、植樹帯を充実させるとともに歩道を拡幅し、歩行者の条件を高めることが、新代田駅や世田谷駅へのアクセスの快適性を向上させる地区の生活にとって重要なプラス要素であり、将来像として掲げたいところである。それは都民としての住民の正当な要求である。

なお電送線の地中化による無電柱化の促進は、景観面、防災面等で望ましいものの、それによって緑の要素が削減されることは環境上望ましいことではないため、注意を要する点である。

③ 交通の結節点・地区の繋ぎ＝鉄道駅と交差点、歩道橋、バス停

◎鉄道駅：代田地区には新代田駅と世田谷代田駅の二つの鉄道駅があり、鉄道利用者の地区の出入口となっており、交通の利便性は高い。世田谷代田駅は小田急線の地下化に併せて駅前広場と合わせて整備されており、集客施設として良好な条件を有している。それに対して、井の頭線新代田駅は出入り口が環七に面しており、駅前に横断歩道な配置されているとはいえ、利用者にとってゆとりもなく劣悪な条件下にあり、横断歩道とともに駅舎に関して修景等改善施設として取り上げられよう。

◎交差点：梅丘通り宮前橋交差点、赤堤通り側道を利用した車の連絡（環七の外側車線側の交通処理対応が必要）

◎歩道橋：代田1丁目と2丁目を繋ぐ歩道橋、代田八幡神社にアクセスする歩道橋

④ 拠点＝広い目で見た拠点

本地区における広域拠点は、羽根木公園と下北沢界隈である。

◎梅林、運動公園、全国に先駆けて作られたプレーパークを配し、図書館も備え、防災拠点でもある羽根木公園（旧根津山）

◎地区外であるが商業と文化が集積している下北沢界隈。なお小田急線の地下化により、世田谷代田駅から地上部に道路、新たな街ができ、魅力ある地区をつくり出している

課題は、地区内から広域拠点へのアクセスの確保であろう。そのため生活道路の改良を要する。

⑤ 生活道路＝交通量の多い補助軸、散策ルート、緑道、新たにできた道路

◎補助軸：環七と交差する梅丘通り、赤堤通り、環七と並行する鎌倉街道（旧道）。これらの道路の多くの区間は交通量が多く安全対策を必要としている。そのため、区道に関しては、イメージハンプを含めた舗装改良、道路修景を施し安全性を高める。赤堤通りは自動車交通が多い都道であるが、歩行に危険を感じる道路であり、歩行者の安全性の向上を要望すべき道路である。

◎散策ルート：代田地区まちづくり計画に記載（街づくり通信1）されたルートを修景

◎北沢川緑道：源頭地は松沢病院付近、下流は三宿付近で烏山川と合流し目黒川に名前を変える（近代）北沢川緑道 | 世田谷区公式ホームページ

◎新たにできた道路：小田急線が地下化する環七付近から下北沢を経て東北沢方面に延びる、鉄道敷きの地上部を利用した店舗と一体となった魅力的な道。この街づくりと道づくりと一体となった整備については、計画立案の過程、事業主体、運営主体等を整理しておくことが望ましい。下北線路街とは？ | 下北線路街（現代）

⑥ 地区内の魅力のあるポイント、人が集まる場所→修景ポイント、一時避難場所は●

●円乗院：江戸期の村の菩提寺、北沢川緑道の脇（代田の森） ウィキペディア (Wikipedia)

●代田八幡神社：江戸期の村の鎮守、環七沿い保護樹林地（代田の森） ウィキペディア (Wikipedia)

・斎田記念館：一般財団法人 斎田茶文化振興財団・斎田記念館 世田谷区代田 3-23-35（代田の森）

斎田記念館について - 斎田記念館（近世）

●まもりやまテラス（子どもの拠点）：旧守山小学校 テラスについて | まもりやまテラス（現代）

●さくら花見堂（子どもの拠点）：旧花見堂小学校 さくら花見堂（世田谷区花見堂複合施設） | 花見堂複合施設「さくら花見堂」（現代）

●羽根木公園内プレーパーク（子どもの拠点）羽根木プレーパーク - Wikipedia、羽根木公園 Wikipedia（現代）

●代田小学校

・小田急線上空の新たにつくられた富士見台、駅前広場、下北沢に連なる道と商業施設

・井の頭線（環七西側区間）紫陽花植樹

・京王井の頭線新代田駅、区民センターの前の交差点周辺

・その他、地区会館、福祉施設等

3. 代田地区 地区街づくり計画の方向性について

① 環七の位置づけなくして代田地区を語ることはできない

先日の会議で、グループ4で環七沿道地区計画は区の計画であることを指摘して取り上げるようになったが、当初ファシリテーターは環七について触れることは都マターだという反応で難色を示した。そして全体の締めくくりに説明の際に、コーディネーターが環七をテーマから外して説明していた。

昔沿道整備に携わった私は、そこに違和感を覚えた。みらい会議への参加者は、

- ・まちづくりを担う、代田地区のコミュニティの構成員であり、
- ・街づくり計画策定の主体であり、地区計画等を提案できる世田谷区民であるとともに、
- ・何よりも、都道環七に対してその在り様等を批判し、要望できる都民である

この基本的なことを、特に住民が関与する街づくりを進めようとする際に踏まえる必要がある。都に対して、世田谷区は行政間の交渉を通して協議するが、都民である住民は、直接要望する権利を有している。行政はそのような存在である住民と手を携えていくことが、協働の理念の元にあるのではない。

会議の後、新代田駅から羽根木に行く途中、環七の外側を歩いたが、無電柱化に加え、狭いものの植樹帯が確保されており、あるビルでは前面に緑を配置していたことに感動した。今からでも出来るのだ。

●緑の軸を構想し、環七を代田地区の中心軸としてふさわしい地位を与える

主要幹線道路である環七は地区の外周道路であり、延焼遮断帯の位置づけにおいて地域分断要素である。その環七を地区の中心軸に位置づけていくことが、今回の街づくり計画の肝ではないだろうか。

40年ほど前に沿道整備計画が策定された。その見直しも含む、地区街づくり計画による再生である。

1) 環七に緑を

ゆくゆくは環七の歩道を拡幅し、植樹帯を充実し、高木植栽で緑の空間づくりをする。当面は、新代田駅から南側区間のように無電柱化と合わせて植樹帯を整備する。また強剪定を避け、緑の環境を保つ。

2) 沿道地区計画の見直しを

代田地区は先行した計画であったせいもあり、緑の保全が沿道地区計画に盛り込まれていない。環七+沿道65m範囲を一体として緑の帯とするために「垣さくの制限」を加え、緑化推進・保全を掲げる。

② 代田らしさを考える

1) 環七に並行して走る鎌倉道に光を当てる

古来この地区を支えてきた鎌倉道に焦点を当て、歴史を再生する。西の拠点羽根木公園と東の鎌倉道。

2) 代田川への名称の変更を

北沢川は、代田川と呼ばれていたことを、茂吉の碑で見た。代田地区の区間はせめて代田川と呼ぼう。

3) 根津山と呼ばれた羽根木公園のほか、点在する代田の森の保全を

代田川に近く点在する、代田八幡、斉田記念館、円乗院の森は代田らしさを代表する保護すべき緑地。

4) 子どもの拠点

全国に先駆けたプレーパーク、小学校の跡地である「まもりやテラス」及び「さくら花見堂」の存在

5) 小田急線上も新しい代田をイメージさせる地区の一つである

新たに加わった小田急線上の街は、富士山と下北沢を繋ぐ賑わいの道を演出する。

6) まちづくりニュースの発行を

代田地区まちづくり協議会により「代田まちづくりニュース」(コミュニティ誌)が企画できないか。

3. 代田らしさを創出する

代田らしさは、地形、市街地、施設、歴史などから浮かび上がる景観要素から醸し出される。

骨格図から代田らしさを導き出せば次のようになる。

1 環七とその沿道が形成する防災・防音性能を持った緑の軸、守られた環境下にある背後の住宅地

2 点在する幾つかの地区の拠点、緑の拠点と子どもらの拠点、二つの鉄道駅、近世～現代の施設

3 代田川緑道と旧道である鎌倉道、小田急線上に新たに作り出された道と街、中世～現代に連なる歴史

4 拠点間を結ぶ散歩道、地形を感じさせる坂道

その他危険な道路、井の頭線保全したい風景、井の頭線の踏切に対する配慮も必要である。

これらの要素をもとに或いはその要素を生かすように住環境のルールを定めることで、代田らしさを表現する街づくりが可能になる。例えば次のようにである。

1.1 環七とその沿道が形成する緑の軸（地域分断の要素を中心軸にし、地区を再生する） →遮音型・防音型・不燃型の街並み、環七の緑化と合わせ緑化推進・保全、沿道地区計画の見直し
1.2 緑の軸の背後の住宅地（第1種低層住居専用地域）の環境を保全する →狭路道路の整備、垣さくの制限、ブロック塀禁止、調和の取れた住宅地景観、緑化推進・保全地域
2.1 点在する緑の拠点（近世江戸期に形成の鎮守代田八幡、菩提寺円乗院、齊田記念館）とその周囲 →緑の拠点は保護樹林、周囲は緑の緩衝空間を創出、住宅の緑化、高木植栽
2.2 点在する子どもらの拠点（プレーパーク、まもりやテラス、さくら花見堂）とその周囲 →コミュニティの核、シンボルツリー、ダイダラボッチ伝説、交通の安全性をより高める
2.3 二つの鉄道駅を中心性の向上 →新代田駅は駅前の二つの交差点を繋ぎ修景し中心性を創出、世田谷代田駅は地域の核の位置づけ
3.1 代田川緑道（茂吉の時代の名称の復活、近代の香り）と街並み →水辺景観と水と緑の保全、街並み景観、桜並木、雨水浸透枳など水の保水、文学の小道の保存
3.2 旧道（中世の道）である鎌倉道を意識する →旧道のデザイン、舗装改良で交通安全を向上、セットバックして歩行者の溜り空間を適宜作り出す
3.3 小田急線上に新たに創り出された（現代から未来に通じる）道と街、賑わい →駅前広場、富士356広場、下北線路街、SHIMOKITA COLLEGE等魅力溢れる下北沢に通じる新しい街
4.1 日常生活を豊かにする散歩道沿い →散歩道の掲示、サイン、セットバックして道空間にゆとりを持たせる、沿道の街並み緑化に注意
4.2 地形を感じさせる坂道 →高さ制限などによる眺望の確保、散歩道で健康づくり
5.1 危険な道路の対策 →道路狭による交差点の改良、イメージハンプなどで交通安全を向上、溜りを創出、ブロック塀禁止
5.2 井の頭線の保全したい風景 →新代田に近い井の頭線の掘割区間で紫陽花
5.3 井の頭線の踏切 →懐かしい踏切の風景、下北沢と新代田の駅間の近さを体感できる、危険な場所も必要
6 その他 憲章等 →街づくり憲章、代田の樹・花（梅の里づくり）、街づくりニュース（コミュニティづくり）

4. 嘗て環七公害と向き合ったときがあった

1950年代から60年代にかけて、我が国で高度経済成長を背景に「水俣病」「新潟水俣病」「イタイイタ病」「四日市ぜんそく」など四大公害病を始め産業公害が発生し、1967年に公害対策基本法ができ、70年に公害国会が召集され、71年環境庁が発足した。

50年以上も前のこと、父を亡くし、母が代田のマンションの我が住まいの隣の部屋に引っ越してきた。その母がある日東京には暗れの日が無いのねと呟いたことに驚いた。東京はずっと暗だった。15年も宇都宮に住んでいた母には、排ガスにまみれた環七の沿道は曇天続きに覚えたのだ。

環七は、1964年東京オリンピックに向けて整備が進められたが、自動車交通が集中し、激しい騒音、振動、排ガス問題が生じており、関西の国道43号と並び、公害道路の代表として知られていた。道路交通公害において、道路や自動車対策だけでは生活障害、健康被害を避けるのは難しいとされ、沿道の遮音型・防音型の街並みの形成に向けて1980年都市計画において地区計画等の一つとして沿道整備計画が制度化され、環七で制度が採用され、騒音対策を中心に、道路公害対策が本格化した。

1983年の東京都による環七沿道1万人のアンケートを契機に、目黒区、世田谷区、中野区、杉並区が先行し、環七沿道環境対策に対して様々な住民参加の試みがなされた。例えば、目黒区と杉並区では住民協議会方式、世田谷区では懇談会方式、中野区では説明会方式により、計画づくりが進んだ。ここで、例えば目黒区の住民協議会方式において、協議会から、区長への地区計画等の提案に止まらず、区議会、都知事、公安委、都議会、建設省、環境庁に道路公害対策に対する要望が提出されている。

1985年から環七沿道整備計画の決定が相次いだ。対象とする代田地区で、計画決定から40年近く経っており、環七沿道では、遮音型・防音型の街並みが形成され、居住側での騒音対策が講じられている。また自動車の単体規制、例えばエンジン音の規制、排ガス規制等が進み、更に低騒音型舗装の導入などにより、道路沿道の環境の改善が図られ、今に至っている。同時に建物の建替え等により、土地の高度利用が進み、建物の耐火化により、延焼遮断帯の形成もみられ、防災性能も向上している。

代田地区にあって、以上のような、環七公害に対して、沿道環境の改善を目指した街づくりが進められたことは街の歴史の一つとして記憶しておくべきことであろう。現在では、環七は公害道路であるよりも、交通渋滞が頻繁に生じ、地域分断をもたらす、植樹が貧困で、歩道が狭く、車道、歩道の条件の改善が必要な道路である。地区街づくりの課題としては、交通渋滞の緩和、新代田駅前の交差点改良による地域分断の影響の緩和、現在進行中の無電柱化に併せた植樹の充実、過剪定の防止、超長期的に停車帯の縮小による歩道の拡幅など、環七の改善の要望を明確にすることが重要である。

今日、環七に対して40年近く前の反公害の意識は薄れているが、都民の権利として、地区街づくりにそれら環七改善の要望を入れることで、計画に膨らみを持たせることが可能であろう。

いつの日にか、これらの環七の改善に係る要望が実現した時、代田地区街づくり計画の南北の中央に沿道地区計画の緑化推進地域指定と合わせて緑の軸ができ、新代田駅前に広い信号交差点が生まれ、快適な歩行空間が地区にもたらされることになる。そして、嘗ての公害道路環七の緑の軸としての再生は、代田地区に止まらず、世田谷区の全区間に波及していく新たな街づくりの資源である。

参考としたウェブ上の資料

- 1 代田八幡神社（近世）出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
- 2 円乗院（世田谷区）（近世）出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
- 3 齋田記念館について - 齋田記念館（近世）
- 4 北沢川（近代）北沢川緑道 | 世田谷区公式ホームページ
- 5 電鉄（近代）小田原線、京王井の頭線、代田連絡線
- 6 羽根木プレーパーク - Wikipedia、羽根木公園 Wikipedia（近現代）
- 7 テラスについて | まもりやまテラス（現代）
- 8 さくら花見堂（世田谷区花見堂複合施設） | 花見堂複合施設「さくら花見堂」（現代）
- 9 下北線路街とは？ | 下北線路街（現代）

地区の歴史の概要

伝承	ダイダラボッチ伝説	代田の名の由来	まもりやまテラスに碑
中世	鎌倉街道		歴史軸として位置づけ
近世	代田八幡神社	代田村の鎮守	緑の拠点
	円乗院	代田村の菩提寺	緑の拠点
	齋田家	旧家 1977 年齋田記念館	緑の拠点
近代	北沢文士村	緑の軸北沢川（代田川）周囲	東京近郊に文化人の居
	根津山	現羽根木公園 1956 年開園	地区全体の拠点、梅の名所
	守山小学校	1932 年開校 2016 年廃校	
	世田谷代田駅	1927 年小田急線	駅前広場は人の集合場所
	新代田駅	1933 年京王井の頭線	区民センターと一体で拠点形成
現代	代田小学校	1952 年開校	戦後の人口増に対応
	花見堂小学校	1959 年開校 2017 年廃校	
	環状七号線	オリンピック前に開通、公害道路	沿道地区計画
	羽根木プレーパーク	1979 年 全国に先駆け	子どもらの拠点
近年	代田区民センター	新代田駅に隣接	コミュニティの拠点
	まもりやまテラス	2019 年開設 旧守山小学校	近年の人口減少に対応
	さくら花見堂	2021 年開設 旧花見堂小学校	子どもらの拠点
	下北線路街	2022 年完成、小田急線地上部の街づくり、世田谷代田駅、富士見台	小田急線の地下化に伴う新しい街並みの形成

将来に関しては、前掲 3 に記した。

最後に

数十年ぶりて、環七沿道整備の今日の課題に触れることができ、楽しい時間を過ごしました。
 貴課が出されている代田地区まちづくり計画・提出版（臨時総会資料）230823（5）.pdf に目を通し、このメモのうち、環七の部分を除き、殆どはすでに議論されたものであることを確認しました。
 メモで触れた環七関連の記述部分を、最終の取りまとめの際に参考として頂ければ幸いです。